



豪雨災害を乗り越えるために ダムのみち朝倉市 全国の皆様へ感謝

水資源機構が建設管理するダムが三つ

平成二十九年七月

九州北部豪雨による甚大な災害

朝倉市は、昭和三十九年に筑後川が水系指定されて以来、両筑平野用水（江川ダム）、寺内ダム、小石原川ダム（工事中）の各事業が展開され、水資源機構とは縁が深い水と緑の豊かな市です。三つのダムは、福岡都市圏や県南地域などに水道用水を供給しており、水源地域としての役割もあります。

七月五日、昼過ぎから降り出した雨は、朝倉市、東峰村を中心に線状降水帯を形成、九州初の大雨特別警報が発表され、九時間七四ミリメートルという観測史上最大の降雨を観測しました。山地部での豪雨は、土砂、流木とともに押し寄せ、三十二名の尊い命を奪い、家屋を押し流し、田畑に壊滅的被害を及ぼしました。未だ二名が行方不明です。

災害直後から、消防・警察・自衛隊、国・水資源機構・県・他自治体から多大の支援をいただきました。また、全国からの支援は今も続いております。心より感謝を申し上げます。

現在、地域と国・県・市が一体となって河川の改良復旧、治山など災害復旧に立ち上がり、住まいづくり等の被災者支援に邁進しています。

下流への洪水被害を守った寺内ダム

発災当時、寺内ダムに計画高水流量の三倍に匹敵する洪水流入がありました。その時、寺内ダムは例年より十メートル以上低い貯水位であったことが幸いし、水資源機構の的確な判断により、洪水と大量の土砂、流木から下流への被害を防ぎました。

この働きを目的にあたりにし、ダム事業に協力されたすべての人たちに心から手を合わせる思いでした。同時に、もし貯水位が例年と同程度だったらと思うと、ダムの治水能力について心配です。多くの市民から「治水能力向上の必要性」が求められています。



平成29年7月九州北部豪雨 赤谷川被災状況

市民の生命と財産を守るため、市民の防災力向上はもちろん、ダムに期待するとともに更に効果を高める施策を求めたいと思います。

三つのダムとその周辺が

観光資源になるために

来春には小石原川ダムが完成する予定です。三つのダムを観光資源として活用するための話し合いが水資源機構、朝倉市及び東峰村の間で進んでいます。地域の産業と観光に貢献するダムが私たちの夢です。原鶴温泉、秋月、三連水車、豊富な果物などとあわせて楽しさいっぱいの朝倉が誇りです。

朝倉市長 林 裕 (はやし ゆたか)



上：寺内ダム 左下：江川ダム 右下：小石原川ダム (完成予想図)